

# 平成20年3月期 決算説明資料



株式会社フジトミ



JASDAQ上場：証券コード8740

# 目次

企業集団の状況	...	1
事業所	...	2
平成20年3月期決算について／表紙	...	3
平成20年3月期決算の概要	...	4
業績概況(連結)	...	5
業績概況(個別)	...	6
貸借対照表(連結)	...	7
貸借対照表(個別)	...	8
業績推移(連結)	...	9
<商品先物取引>営業収益の推移(連結)	...	10
四半期ごとの営業収益の推移(連結)	...	11
受取手数料の市場別内訳(連結)	...	12
自己売買損益の市場別内訳(連結)	...	13
平成21年3月期業績予想について／表紙	...	14
平成21年3月期業績予想(連結・個別)	...	15
平成21年3月期業績予想について	...	16
当社の取り組み	...	17

本資料は、平成20年3月期の業績等に関する情報の提供を目的としたものであり、当社が発行する有価証券の投資を勧誘することを目的としたものではありません。

本資料に掲載されている事項は、資料作成時点における当社の見解であり、その情報の正確性および完全性を保証または約束するものではありません。

本資料は、6月27日時点でのデータを元に作成しております。



# 事業所

※平成19年3月末をもって、  
渋谷支店を本社に、難波  
支店を大阪支店に統合  
しております。



## <東京地区>

本 社: 東京都新宿区大久保1-3-17  
子 会 社: 丸梅株式会社  
東京都中央区日本橋兜町7-2

## <関西地区>

大阪支店: 大阪市中央区難波4-4-4

## <九州地区>

福岡支店: 福岡市中央区天神2-14-13

# 平成20年3月期決算について

---

---



# 平成20年3月期決算の概要

## <業界環境>

現在、商品先物取引業界は大きな変革期にあり、商品取引所法の改正(平成17年5月施行)による商品取引員に対する勧誘規制の強化などで、商品先物取引市場の規模縮小が続き、全国商品取引所の出来高合計は平成16年3月期の1億5,583万枚から当連結会計年度は7,107万枚(前期比16.5%減、平成16年3月期比54.4%減)と大幅に減少しております。

## <当社グループの営業成績>

このような環境のなか、当社グループの商品先物取引受託業務に係る受取手数料は1,479百万円(前期比29.3%減)と低調な結果となり、自己売買業務は農産物市場を中心に概ね順調に推移し、売買益773百万円(前期比58.5%増)を確保したものの、営業収益は2,255百万円(前期比12.6%減)となりました。一方、営業拠点の統合や人件費等の削減により、営業費用は2,802百万円(前期比9.3%減)となりましたが、営業費用の削減幅を上回る減収で、営業損失546百万円となりました。当連結会計年度の業績は次の通りであります。

営業収益	2,255百万円 (前期比12.6%減)
経常損失	465百万円 (同 6.5%増)
当期純損失	775百万円 (同 47.1%増)

## <子会社丸梅(株)の概況>

受託業務の受取手数料が565百万円(前期比28.3%減)と低調で大幅な減収となり、当連結会計年度の丸梅(株)の業績は次の通りとなりました。

営業収益	661百万円 (前期比28.3%減)
経常損失	127百万円 (前期は経常利益160百万円)
当期純損失	153百万円 (前期は当期純利益102百万円)

## 業績概況（連結）

（単位：百万円）	H19. 3期	H20. 3期	対前年増減率
営業収益	2,581	2,255	△12.6%
内 受取手数料	2,094	1,482	△29.2%
営業利益	△507	△546	—
経常利益	△436	△465	—
当期純利益	△527	△775	—
一株当たり当期純利益	△76.88円	△113.06円	—
一株当たり純資産額	1,069.15円	906.07円	△15.3%
自己資本比率	59.9%	59.3%	△0.6%
ROE(自己資本利益率)	△6.7%	△11.4%	△4.7%
ROA(総資産利益率)	△3.7%	△4.6%	△0.9%

# 業績概況（個別）

（単位：百万円）	H19. 3期	H20. 3期	対前年増減率
営業収益	1,659	1,593	△3.9%
内 受取手数料	1,304	917	△29.7%
営業利益	△666	△415	—
経常利益	△597	△328	—
当期純利益	△629	△612	—
一株当たり当期純利益	△91.78円	△89.28円	—
一株当たり純資産額	1,006.23円	867.36円	△13.8%
自己資本比率	71.7%	72.6%	0.9%
ROE(自己資本利益率)	△8.5%	△9.5%	△1.0%
ROA(総資産利益率)	△6.1%	△4.3%	1.8%



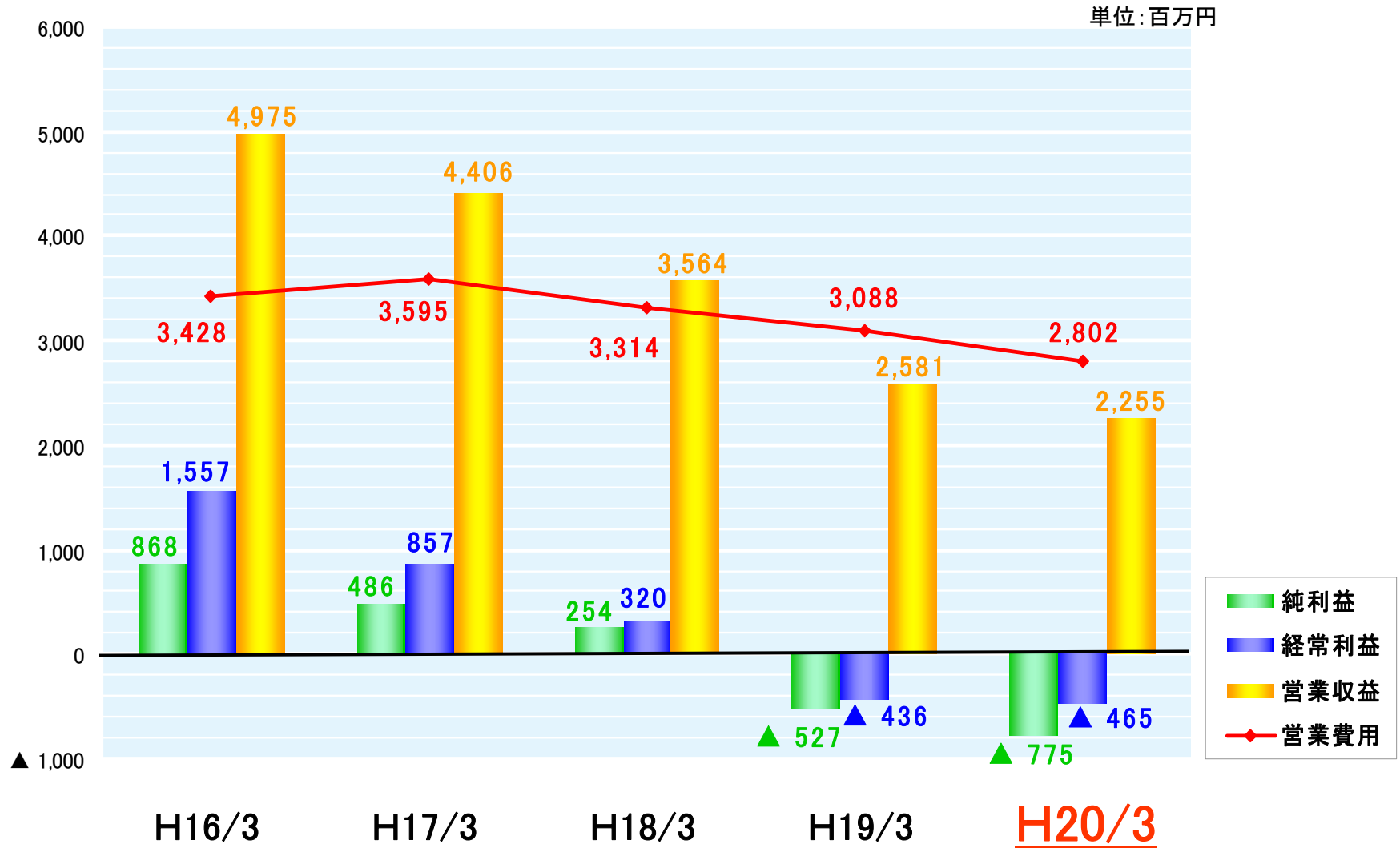
# 貸借対照表（連結）

（単位：百万円）	H19. 3期	H20. 3期	対前年増減率
流動資産合計	8,596	7,481	△13.0%
内 現金及び預金	4,378	3,780	△13.7%
固定資産合計	3,654	3,003	△17.8%
内 投資有価証券	1,136	617	△45.7%
内 投資不動産	884	872	△1.3%
資産合計	12,250	10,484	△14.4%
流動負債合計	4,013	3,429	△14.6%
内 預り証拠金	3,759	3,203	△14.8%
固定負債合計	779	753	△3.3%
負債合計	4,916	4,269	△13.2%
純資産合計	7,334	6,215	△15.3%
内 その他有価証券評価差額金	406	166	△59.1%

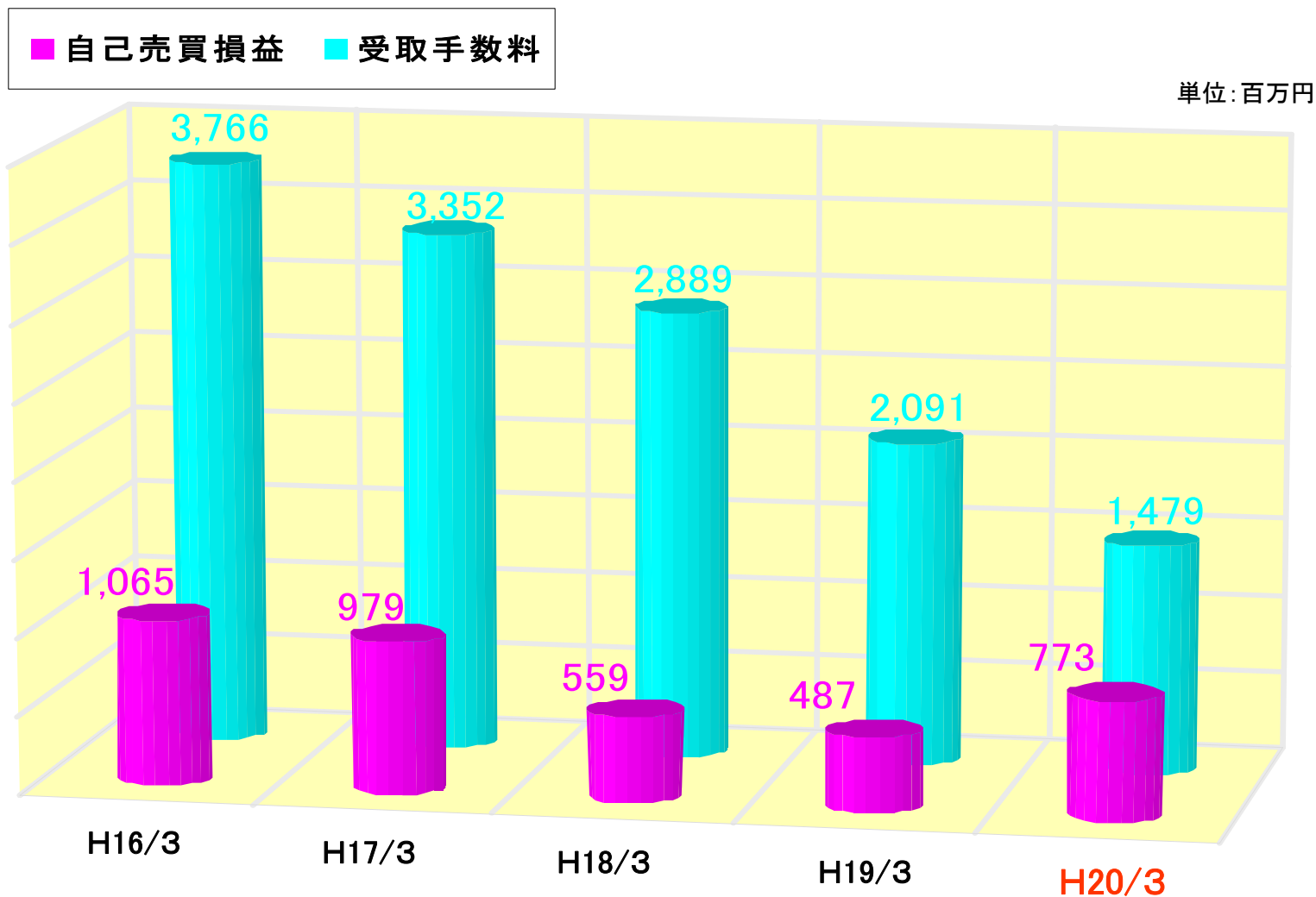
# 貸借対照表（個別）

（単位：百万円）	H19. 3期	H20. 3期	対前年増減率
流動資産合計	5,473	4,692	△14.3%
内 現金及び預金	3,386	2,896	△14.5%
固定資産合計	4,149	3,503	△15.6%
内 投資有価証券	1,104	564	△48.9%
内 投資不動産	884	872	△1.3%
資産合計	9,622	8,195	△14.8%
流動負債合計	1,985	1,617	△18.5%
内 預り証拠金	1,800	1,450	△19.5%
固定負債合計	644	565	△12.3%
負債合計	2,719	2,245	△17.4%
純資産合計	6,902	5,950	△13.8%
内 その他有価証券評価差額金	406	169	△58.4%

# 業績推移（連結）



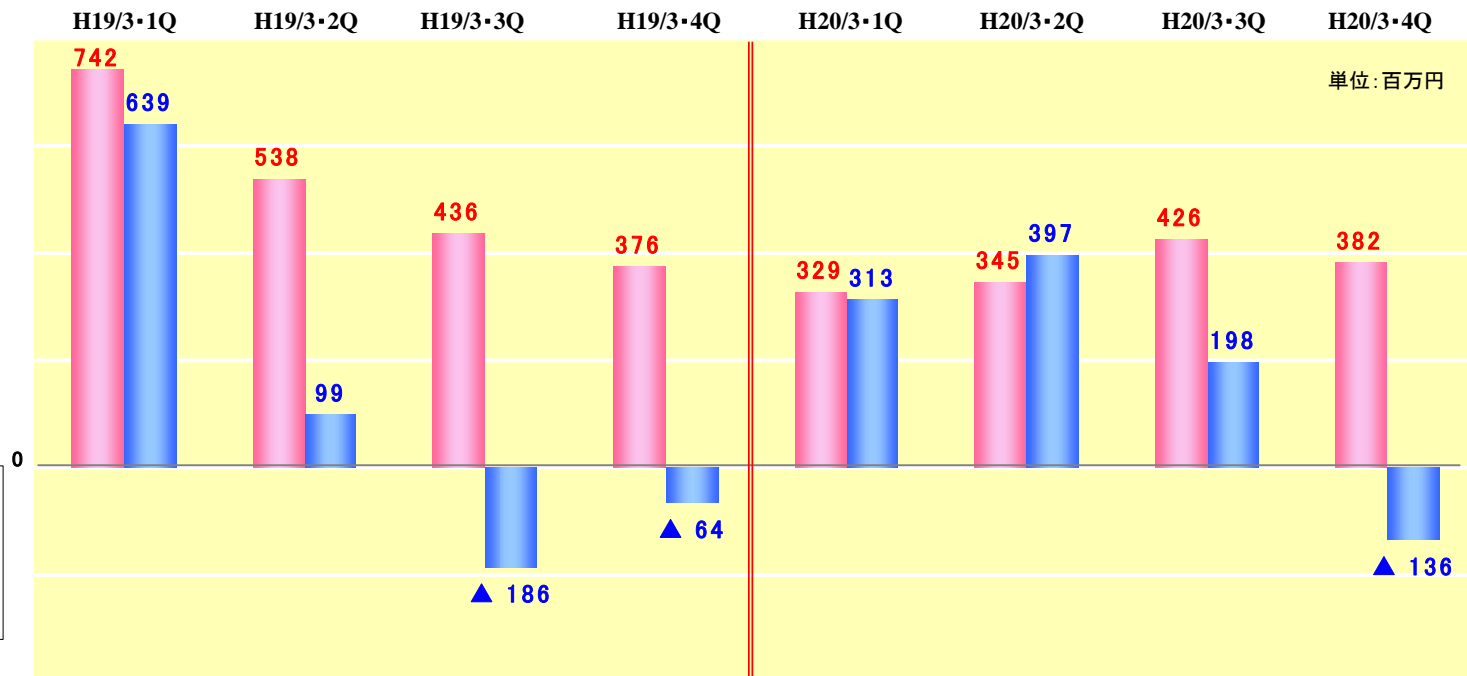
# ＜商品先物取引＞営業収益の推移（連結）



# 四半期ごとの営業収益の推移(連結)

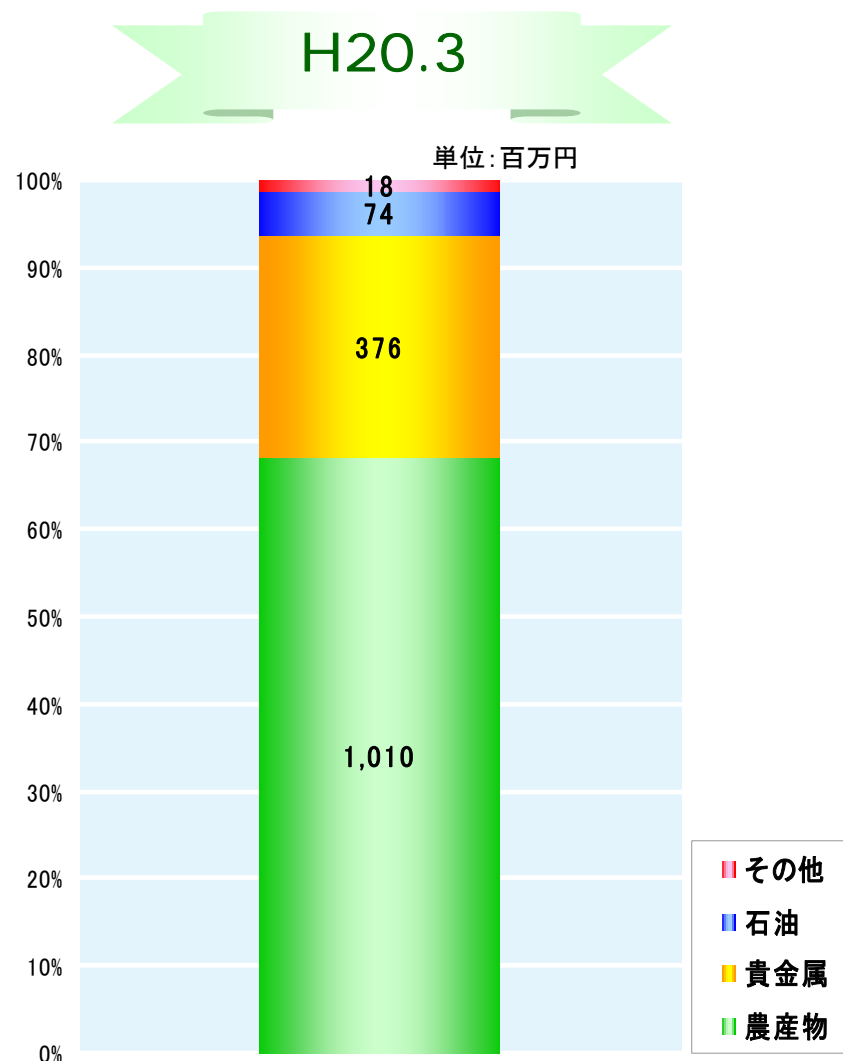
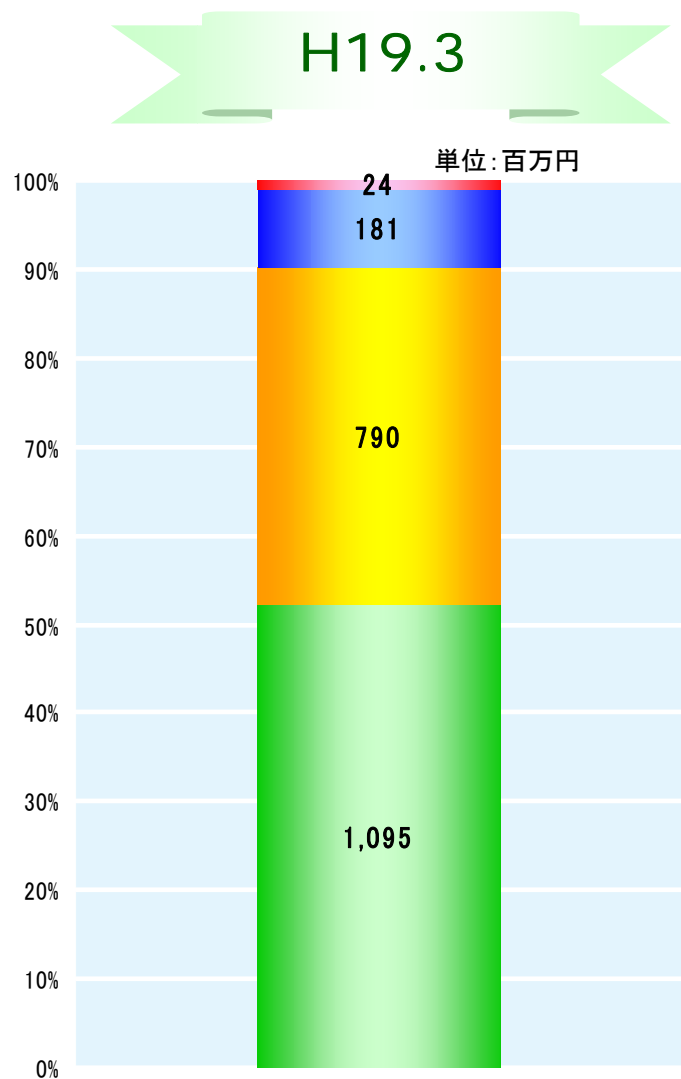
当社グループの業績は、市場動向に左右されるため、四半期毎など短期では大きく変動しております。

■ 受取手数料  
■ 売買損益



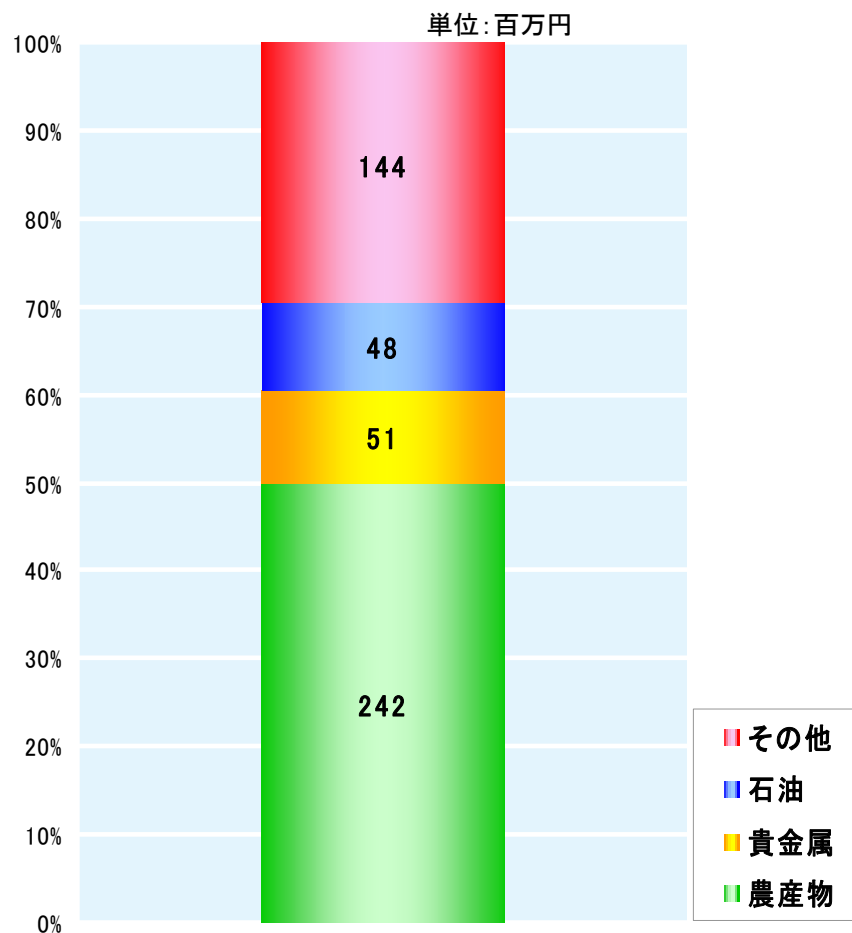
(単位: 百万円)	H19/3 1Q	H19/3 2Q	H19/3 3Q	H19/3 4Q	H20/3 1Q	H20/3 2Q	H20/3 3Q	H20/3 4Q
受取手数料	742	538	436	376	329	345	426	382
商品先物取引	741	538	436	374	328	344	425	380
商品ファンド	0.2	0.3	0.3	2.1	0.6	0.3	0.0	0.0
生損保の募集	-	-	-	-	-	0.0	0.7	1.7
売買損益	639	99	△ 186	△ 64	313	397	198	△ 136
商品先物取引	639	99	△ 186	△ 64	313	397	198	△ 136

# 受取手数料の市場別内訳(連結)

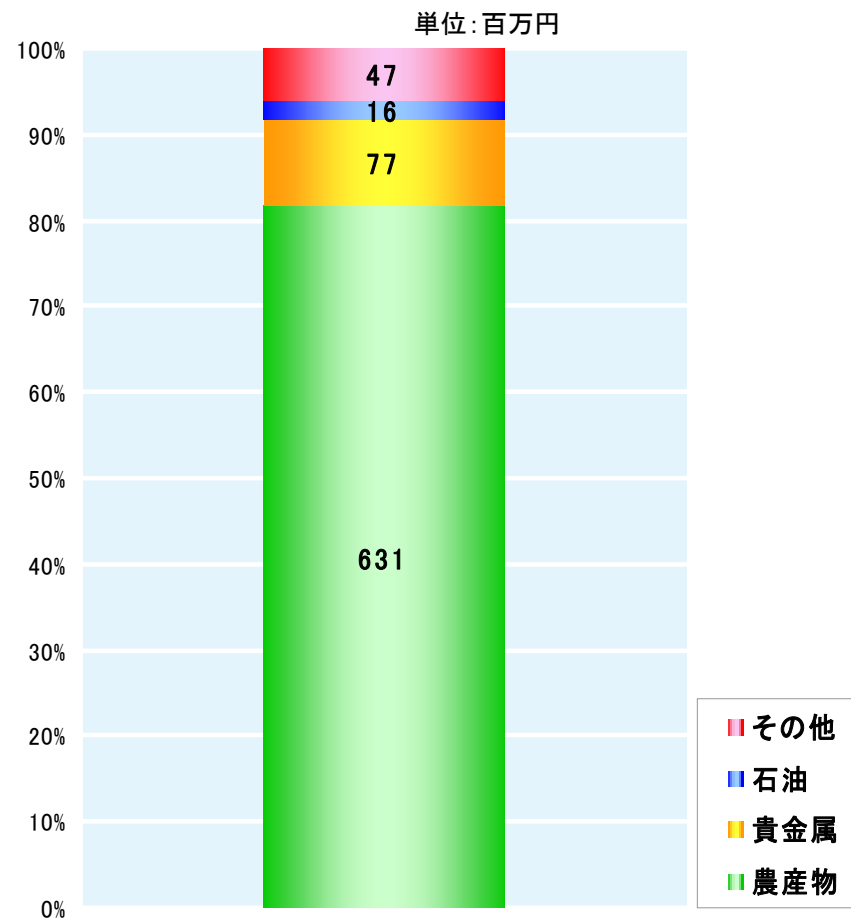


# 自己売買損益の市場別内訳(連結)

H19.3



H20.3



# 平成21年3月期業績予想について

---





# 平成21年3月期業績予想(連結・個別)

## 連結

(単位:百万円)	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	1株当たり 配当金
20年3月期実績	2,255	△ 546	△ 465	△ 775	△ 113.06円	10円
21年3月期予想	2,100	△ 180	△ 105	△ 170	△ 24.78円	7.5円

## 個別

(単位:百万円)	営業収益	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり 当期純利益	1株当たり 配当金
20年3月期実績	1,593	△ 415	△ 328	△ 612	△ 89.28円	10円
21年3月期予想	1,440	△ 180	△ 100	△ 145	△ 21.14円	7.5円

(注) 上記予想は発表日現在入手できる情報並びに不確実要因に係る仮定に基づくものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

# 平成21年3月期業績予想について

平成21年3月期につきましては、平成20年3月期の経常赤字額を上回る営業費用の削減(削減目標は、連結500百万円以上、個別380百万円以上)を図ると共に、平成20年3月期並の営業収益を確保し、経常収支のバランス回復を図る方針であります。

しかしながら、商品先物取引市場の出来高減少が続き、平成20年1月から4月までの全国商品取引所の出来高は2,062万枚(前年同期比14.8%減)となっており、平成20年3月期並の営業収益を確保することが困難な場合も予想されます。

商品先物取引の受託業務及び自己売買業務を主たる事業としている当社グループの営業収益は市場環境の影響を強く受けるため、確度の高い業績予想を行うことは困難であります。市場環境等の影響による当社(個別)の減収を10%程度、また、平成20年3月期の減収幅が大きかった子会社丸梅(株)は平成20年3月期並の営業収益を維持するものと仮定して前ページの業績予想を作成しております。

なお、当社グループの業績は個々の商品の値動きにも大きく左右され、四半期毎又は半期毎などの短期間では通期に比べより大きく業績が変動する傾向にあり、中間期の予想は一層困難であるため、中間期の業績予想は省略しております。

(注) 上記予想は発表日現在入手できる情報並びに不確実要因に係る仮定に基づくものであり、実際の業績は、今後、様々な要因によって大きく異なる結果となる可能性があります。

# 当社の取り組み

## 1. 商品先物取引受託業務の収益力向上

顧客サービスの向上のための従業員教育の充実

## 2. 収益規模に相応しい人員体制の実現

人件費の圧縮を中心とした大幅な営業費用の減額  
＜削減目標：連結 500百万円以上、個別 380百万円以上＞

## 3. 保険募集業務(平成20年3月期開始)の拡大

生損保募集の体制整備を進め、安定収益源として育成

## 4. 収益の多様化

新たな収益機会を積極的に追求  
＜6月16日にソーラーシステムの販売子会社を設立＞



本資料に関するお問い合わせ先

株式会社 フジトミ

経営企画室

E-mail: [keiei-kikaku2@fujitomi.co.jp](mailto:keiei-kikaku2@fujitomi.co.jp)